

「鹿児島県の近現代」連続トークイベント

「#鹿児島県の女性 01」レポート

「鹿児島県の近現代」教育研究センター 特任助教 鈴木 優作

本センターは、天文館図書館交流ホールにて「鹿児島県の近現代」連続トークイベントの第01回を開催いたしました。

第1部は、近現代センターの鈴木優作特任助教によるトーク「女性作家を視座とした鹿児島県近現代文学」がありました。鈴木特任助教は西南戦争を題材にした文学作品を例にあげ、池波正太郎や司馬遼太郎ら男性作家と阿井景子や石牟礼道子ら女性作家が鹿児島県の女性をどのように描いたか対比的に解説しました。そのうえで、鹿児島県をめぐる女性作家のまなざしには、社会・地域・文化における二項対立構造の階層制を可視化・相対化する可能性があるのではとの指摘をおこないました。

第2部は、鹿児島大学文芸同好会 Sora によるビブリオバトルがおこなわれました。三名の発表者がお薦めの本の紹介による対決をし、会場での投票により優勝者が選ばれました。

第3部は、法文学部澤田成章ゼミと鹿児島大学文芸同好会 Sora による「ChatGPT 対 人間」書評対決の結果発表がおこなわれました。澤田准教授は AI と人間それぞれの長所を分析した上で、AI がある程度の質で大量の文章を生産可能である一方、人間は多くの時間をかけて人を動かす文章を作れるということを論じました。

